

1 単 元 名 うごくおもちゃをつくろう

2 指導要領の目標と内容

(1) 目 標

身近な自然の事物・現象に親しませ、それらを見たり確かめたりさせて、事物の特徴及び変化の様子に気付かせるようにするとともに、自然に接していく楽しさを味わわせる。

(2) 内 容

おもりで動くおもちゃを工夫して作ったり動かしたりさせながら、おもりの重さ、付け方などによって、動きの違いがあることに気付かせる。

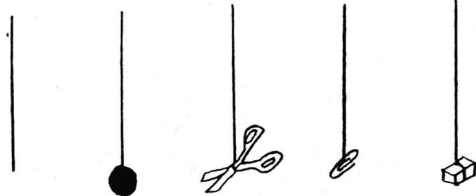
3 活 動 例

おもりの位置、大きさ、形とふりこの動き方の違いに気付かせる。

例1 一本の糸のふりこに、身のまわりのいろいろなおもりをつけてゆらしてみる。

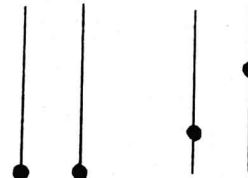
例2 おもりをつける位置や大きさを変えてゆらしてみる。

(1)



糸 ねん土 はさみ クリップ けしゴム

(2)



例3 棒や板を使ったふりこを工夫して作りゆらしてみる。

シーソー作りを通しておもりの種類や大きさ、付ける位置とゆれ方に気付かせる。

例1 よくゆれるシーソーを工夫して作る。

※ おもりの種類、つける位置、大きさを変えたりして、おもしろいゆれ方を見つけられるようにする。

やじろべえ遊びを通して、おもりの大きさや位置とゆれ方の関係をとらえさせる。

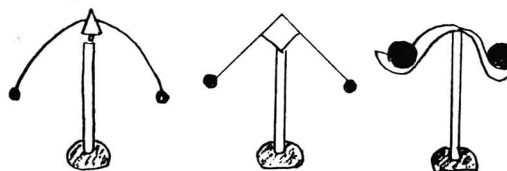
例1 うでの長さ同じやじろべえを作る。

※ 材料は身近な物で、児童が製作する

のに容易なものがよい。

針金(アルミ)、竹ひご

アルミ棒、アルミ板



ねん土